

カースペースのデザインテクニック

敷地に対するカースペース(駐車場)面積の割合は意外と大きく、この部分を単なる土間コンクリートで仕上げると、昼間車がない時など単調で固いイメージを与えてしまいます。また、狭小地においてお庭とカースペースを両立させようとするならば、その配置や植栽とのコーディネートも必要不可欠となってくるでしょう。今回はカースペースの標準的な基本寸法とレイアウトパターン、床のデザインのポイントや植栽をどう採り入れるかを、事例をあげて解説していきたいと思います。



ふるはし のりまさ
古橋 宜昌

Furuhashi Norimasa

生年月日:1958年4月6日
東京電機大学理工学部建設工学科卒。
有限会社エクスプランニング代表取締役・エクステリア&ガーデンアカデミー東京校長
一級建築士・一級造園施工管理技士・一級土木施工管理技士。
JAG日本ガーデンデザイナーズ協会会員・英国王立園芸協会会員・同推奨品認定委員
大手ハウスメーカーのエクステリア部門を経て、1997年、日本では珍しいエクステリアとガーデンの設計業務を請け負う会社「エクスプランニング」を設立。
個人住宅のエクステリア&ガーデン設計は年間500棟を越え、その設計事例は多くのガーデニング専門誌等で紹介されている。
ホテルオークラで開催されたガーデニングショーでは「イギリス大使夫人の庭」のデザインと施工を担当。設計業務の傍ら専門学校や英国王立園芸協会などのセミナーの講師、デザインコンテストや「TVチャンピオンガーデニング王選手権」の審査員なども務める。

ホームページアドレス <http://explanning.m78.com>

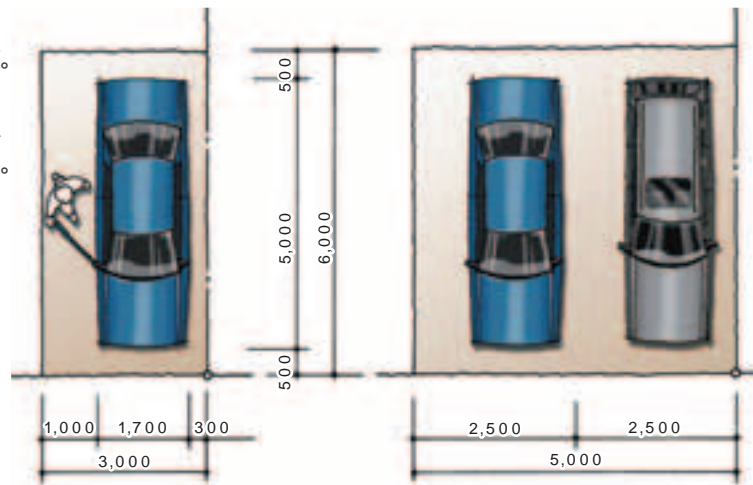
基本寸法

1

どんなにデザインが良くても、物理的に車が納まらなくてはなりません。まずはしっかりと必要寸法を頭に入れておきましょう。

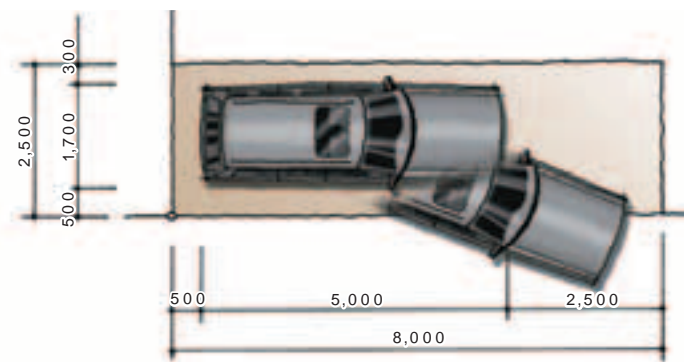
直角駐車の場合

1台駐車の場合は間口3.0m、奥行き6.0mを基本とします。車の幅は1.7m程度ですが、運転席側のドアを空けるスペースもみておかななくてはなりません。2台以上並べて駐車する場合は1台あたり2.5mを目安に確保しておきます。



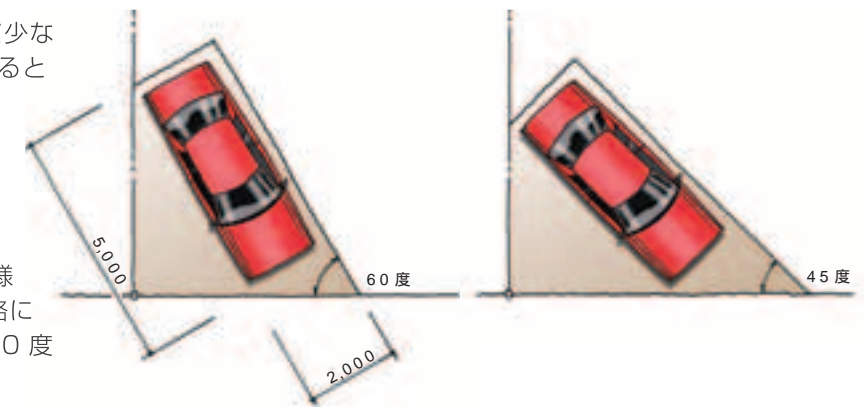
平行駐車の場合

間口寸法は8m、奥行き2.5mを基本とします。車そのもののスペースとしては間口5.5mで納まりますが、出入りのためのスペースとしてその前方を2.5m程度あけておく必要があります。何も工夫しないで計画すると、道路面のほとんどが土間コンクリートになってしまうので注意してください。



斜め駐車の場合

斜め駐車の実例はまだ少ないですが、うまく処理すると使い勝手も良く、個性的なデザインとすることが可能です。奥行きは短い側で最低でも5m確保し、そこから車幅+αとして2m取る様にしましょう。角度は道路に対して60度・45度・30度が目安です。

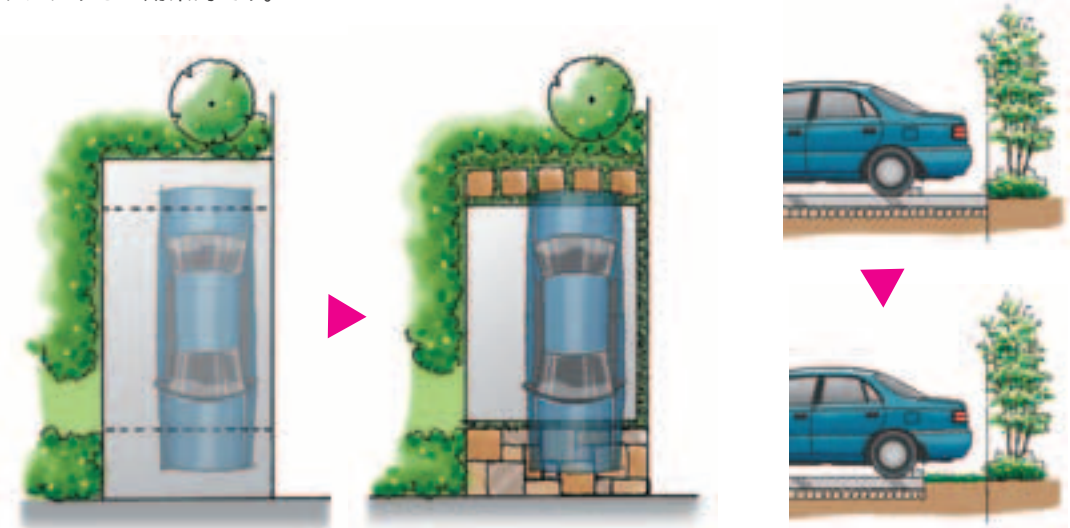


床のデザイン

2

基本的な考え方

床の一部に天然石やレンガでアクセントを付ける場合は、最優先で道路側に入れましょう。その後の土間コンクリートとの境目には草目地を設けるときれいに納まります。また、後部80cm程度はタイヤが乗らないので無理してコンクリートを打たないで、平板と地被植物でアレンジすると効果的です。



アクセントを付ける場合は道路側を最優先に。又、トランクからの荷物の出し入れを考慮して地被植物の中に平板などを配置する。

駐車場後部はタイヤが乗らないので無理してコンクリートを打たない。